

～小さな平地が連なるまちを守るための流域治水～

○気候変動による水災害の激甚化・頻発化に対応するため、栃谷川・久美谷川水系においても、事前防災対策を進める必要があり、以下の取り組みを実施していくことで、流域における浸水被害の軽減を図る。

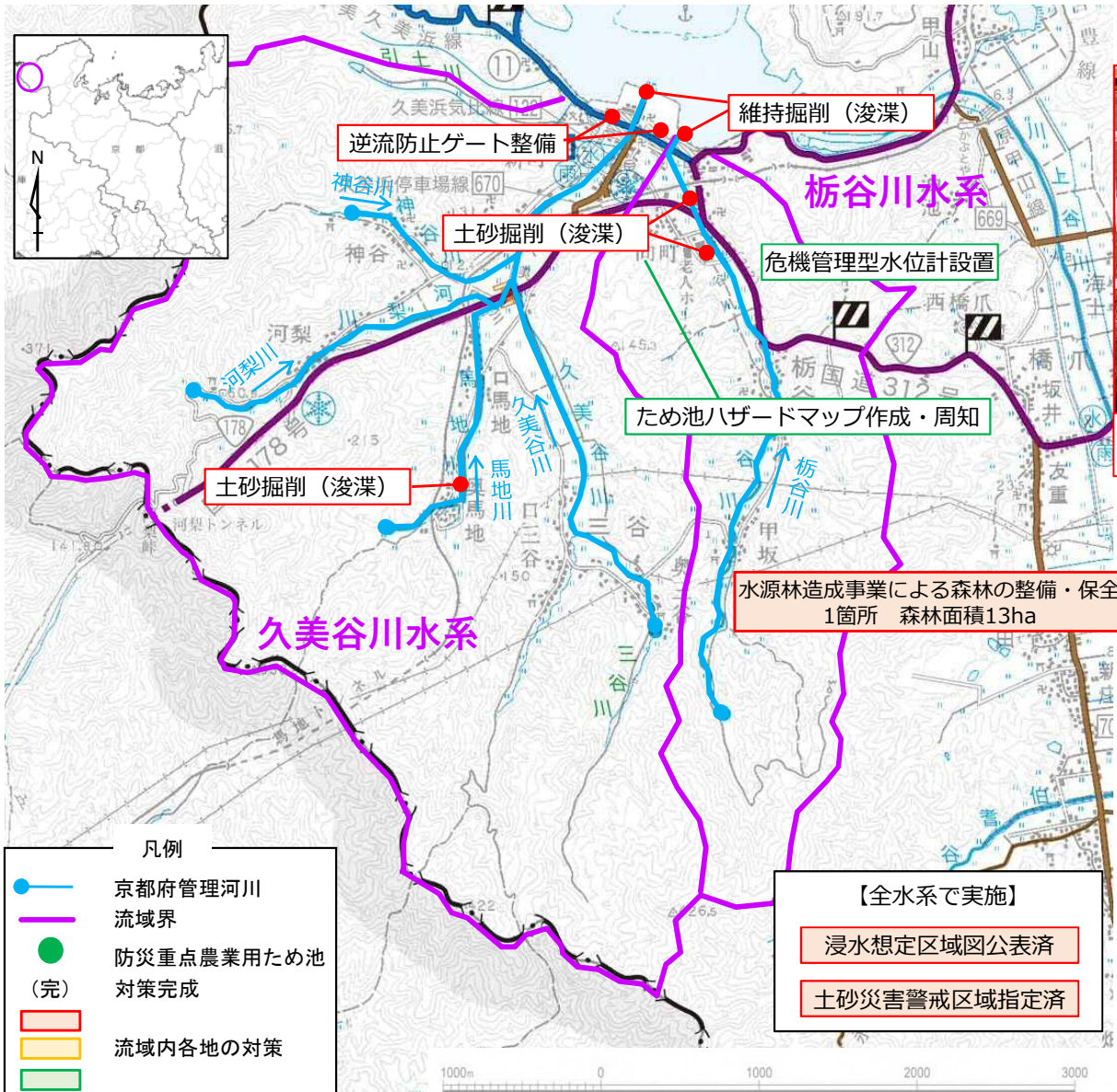


図-1 逆流防止ゲート整備（イメージ図）

- ### 対策内容
- 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策
 - ・高潮対策（逆流防止ゲート整備）
 - 被害対象を減少させるための対策
 - ※対策が実施され次第、掲載を予定
 - 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策
 - ・水害リスク情報空白地帯の解消
 - ・住民の水害リスクに対する理解促進の取組
 - ・土砂災害警戒区域等の指定
 - ・避難行動に資する情報発信等の高度化及び防災情報の充実
 - ・排水ポンプ車出動要請の連絡体制の整備
 - ・被災自治体に対する支援の充実
- ※災害からの安全な京都づくり条例に基づき、府、市等が一体となって防災対策を推進



図-2 ため池、洪水ハザードマップの作成・周知（提供：京丹後市）



















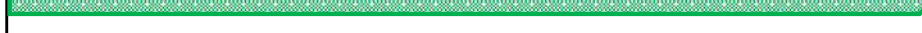
図-3 維持掘削

※本図は全対策の内、代表的な対策を記載している。
※具体的な対策内容については今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

●栃谷川・久美谷水系では、上下流・本支川の流域全体を俯瞰し、府、市町が一体となって、以下の手順で「流域治水」を推進する。

【短期】 河道掘削等の河川維持管理を行うとともに、「海岸保全施設の整備・維持」を行う

【中長期】 河川整備により、さらなる流下能力の向上を図るとともに、「避難行動に資する情報発信等の高度化及び防災情報の充実」や「住民の水害リスクに対する理解促進の取組」等のソフト対策を実施する

区分	主な対策内容	実施主体	工程 ( 対策実施中  対策完成)	
			短期 (令和4年度～令和8年度)	中長期 (令和9年度～令和33年度)
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	逆流防止ゲートの整備	京丹後市		
	河川等の維持管理	京都府		
	流域の雨水貯留機能の向上・保全	森林整備センター		
被害対象を減少させるための対策	-	-		
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	水害リスク情報空白地帯の解消	京丹後市、京都府		
	住民の水害リスクに対する理解促進の取組	京丹後市		
	土砂災害警戒区域等の指定	京都府		
	避難行動に資する情報発信等の高度化及び防災情報の充実	京丹後市、京都府		
	被災自治体に対する支援の充実	京丹後市		

気候変動を踏まえた更なる対策を推進